

令和8年2月16日

太田市議会議長 星野 一広 様

太田クラブ 代表 白石 さと子

## 会派行政視察報告書

1 期日 令和7年8月25日(月)から27日(水)までの3日間

2 視察地(視察事項)

8月25日(月)

愛媛県 今治市 「今治市のサイクリング施策について」

8月26日(火)

愛媛県 松山市 「選挙コンシェルジュ選挙クループロジェクトについて」

8月27日(水)

広島県 広島市 「広島平和記念資料館について」

3 参加者 5名

白石 さと子 町田 正行 山田 隆史

木村 浩明 若林 卓実

4 視察概要 別紙のとおり

令和7年8月25日(月)

愛媛県 今治市 「今治市のサイクリング施策について」

## 目的

スポーツサイクルは、乗ることで得られる「健康」や趣味を通じた「生きがい」、そして仲間との繋がりによる「友情」を与えてくれるツールであり、こうした考え方を通じた文化が自転車新文化である。今治市の先進的なサイクリング施策を学び、自転車を通じたまちづくりへの理解を深めることを目的とする。

## 概要及び所感

今治市は人口 146,721 人、世帯数 76,436 世帯、総面積は 419.21 km<sup>2</sup>であり、愛媛県の北東部に位置し、タオル、縫製、製塩、造船などが地場産業として発展するとともに、西瀬戸自動車道の開通により中四国の交流、流通の拠点である。風光明媚な景観と歴史遺産を誇る観光、また造船、海運都市として重要性を高めている。

瀬戸内しまなみ海道は、愛媛県今治市と広島県尾道市を結ぶ全長 59.4km のルートであり、瀬戸内海国立公園に指定された瀬戸内海に浮かぶ芸予諸島の島々を、風光明媚な景観に溶け込む 9 本の様々な形状デザインの橋で結んでいる。しまなみ海道最大の特徴は、自転車だけでなく、「自転車や歩いてでも渡ることができる」ことである。

近年では、国内外から多くのサイクリスト(自転車愛好家)が訪れ、自転車でゆったりとした島時間・島旅を楽しんでおり、しまなみ海道沿線への民間資本の参入(ホテル、カフェ、各種サービス等)及び移住者が増加傾向にある。

令和5年度から幼児および高齢者自転車用ヘルメット購入補助を行っており、ヘルメット1個につき、購入費用の2分の1(上限3,000円)の補助を行っている。

本市でも、自転車乗用中の交通事故による被害軽減のため、こうした補助事業を取り入れていくべきであると感じた。

他に、自転車を交通手段とする在住外国人向けに日本の交通ルールや自転車の正しい乗り方などを教えており、本市も増加する在住外国人向けにこのような講座が活かせるのではないかと考える。



令和7年8月26日(火)

愛媛県 松山市 「選挙コンシェルジュ選挙クループロジェクトについて」

### 目的

18歳選挙権の導入により、若年層への選挙啓発が重要性を増している。松山市の「若者と考える投票率向上プラン」を学び、先進的な施作への理解を深め、本市の投票率向上に活かすことを目的とする。

### 概要及び所感

松山市は、人口494,962人、世帯数255,380世帯、総面積429.35km<sup>2</sup>であり、愛媛県の中央部に位置し、瀬戸内海に突き出した高縄半島の西部及び忽那諸島などから構成されている。

明治6年愛媛県庁が設置され県都となり、明治22年12月15日、全国で39番目の市として市政が施行され、政治・経済の中心として成長してきた。また、近代俳句の祖、正岡子規をはじめ、多くの文人を輩出するなど地方文化の拠点としての役割を果たしている。

松山市選挙管理委員会事務局は、有権者数約42万人に対し、事務局長含め10人の専任職員がおり、投票所数は99ヶ所、期日前投票所数39ヶ所(うち商業施設2ヶ所、大学2ヶ所)となっている。

特に、大学構内に期日前投票所を設置したのは全国初の試みとなっており、参加型の啓発として選挙コンシェルジュを認定し広報力の強化や選挙クルーを認定し参画の輪を広げている。

主権者教育の充実にも力を入れており、生徒会選挙プロデュースにより18歳選挙権にも対応している。

選挙コンシェルジュの取り組みの概要としては、地元の学生を選挙コンシェルジュに任命し、さらに主権者教育や映像制作等の専門分野を持つ民間団体を選挙クルーと認定し、選管と連携して、出前授業・模擬選挙、生徒会選挙プロデュース、児童館におけるおもちゃ総選挙等の取組を積極的に展開し、主権者教育の取り組みを実施している。

取り組みの効果・成果としては、選挙コンシェルジュとしての活動は、高校生から思った以上に反応が返ってくるため、伝えることにやりがいを感じたり、学生が模擬選挙等で話すことで、聞く側も同世代として響く部分が多く、市選管と選挙コンシェルジュや選挙クルーとの連携によってそれぞれの強みを活かした取組が実施できている。

本市では、特別委員会で市内高校に出向き高校生との交流を図っているが、松山市での取組を参考に、主権者教育のより一層の拡充が図れるのではないかと感じた。

特に、生徒会選挙プロデュースでは、実際の選挙で使用する投票箱や記載台を貸し出し、投票用紙計数機なども利用して開票作業の支援を行っており、若者が選挙を身近に捉えるきっかけとなるため、本市でもこのような取組ができないか模索していきたい。



令和7年8月27日(水)

広島県 広島市 「広島平和記念資料館について」

## 目的

令和7年は、第二次世界大戦の集結から80年の節目にあたり、戦争の記憶の継承と平和の重要性が再認識される年である。

本視察は、広島平和記念資料館を訪問し、原子爆弾投下の実相と被爆の惨禍を直接的な資料や証言を通じて学ぶとともに、平和の尊さや核兵器の非人道性について理解を深めることを目的とする。

## 概要及び所感

広島平和記念資料館は、広島市の平和記念公園内にある原爆関連の主要な展示施設で、1945年8月6日の原子爆弾投下とその影響を記録・展示し、核兵器廃絶と恒久平和を訴えることを目的として、1955年（昭和30年）8月24日に開館した施設であり、2006年には国の重要文化財に指定されている。

資料館では、原爆投下直後の写真、被爆者の遺品、衣類、焼け焦げた自転車などの実物資料を多数展示し、原爆がもたらした被害の実相を伝えており、被爆者の証言映像や手記、さまざまな平和関連資料を通じて、被爆の人的側面や戦後の復興・平和への願いも紹介している。

また、資料館は修学旅行や国際的な来訪者にとって重要な学びの場であり、平和教育・啓発の中心的役割を果たしており、被爆体験の継承や核廃絶を議論するための展示更新やイベントも行われている。

本市では、令和7年から太田市学習文化センター内にて、戦争の悲惨さを風化させることなく、平和の大切さを後世に伝え続けるため、「太田市遺族会 戦争を語り継ぐ会」が所蔵する、遺族や市民から寄贈された戦時中の遺品・資料を「太田市平和祈念展示資料室」として、常設展示している。

広島平和記念資料館の視察を通じ、戦争被害の実相を「過去の出来事」としてではなく、「現代社会にも通じる課題」として伝える展示手法や情報発信の在り方について多くの示唆を得た。

今後は、これらの知見を踏まえ、学校教育や生涯学習の場において、戦争や核兵器の悲惨さ、命の尊さを学ぶ機会を確保し、次世代への平和意識の継承を図り、平和教育・人権教育の充実や、展示や講演会、資料の活用などを通じ、市民が平和について主体的に考える機会を創出し、市民向け啓発の拡充を図っていくべきであると感じた。

今後も、平和の尊さを市政の根幹に据え、市民一人ひとりが安心して暮らせる社会の実現に向けた取り組みの拡充をしっかりと果たしてまいりたい。

